

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100724		
法人名	特定非営利活動法人 暮らしネット・えん		
事業所名	グループホームえん		
所在地	埼玉県新座市石神2-1-4		
自己評価作成日	平成22年1月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-
----------	---------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88
訪問調査日	平成23年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(事業所単独ではなく)法人全体として、地域交流(コンサート・焼き芋会・バザーなど)を行なうなどし、地域の輪を保ち・拡げる努力を続けている点。また、調理・清掃・レクリエーション・運転など多数のボランティアスタッフの支援がある点。
ほぼすべての介護職員が介護福祉士資格を保有している点。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は、法人組織の一事業所としてデイサービスを併設したグループホームで、田畑や雑木林の残る自然に恵まれた住宅地の一角に位置し、周辺には小学校・中学校・お寺や二つの病院がある。雑木林には遊歩道もあり、利用者が自由に散歩できる環境にある。創設者の認知症の方への強い想いから設立され、地域住民との交流を図るためにも地域事業に取り組み、近隣の学校からの「職場体験」や地域ボランティアの受け入れを日常的に受け入れている。法人独自の研修や外部研修に職員は積極的に参加し、サービスの向上に活かしている。利用者の笑顔の絶えない明るいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや研修の中で確認しあっている。新人スタッフも多く入ってきているので共有し実践につながるよう、日々努力している。	朝と昼に行われる申し送りは、併設のデイサービスと一緒にこなすので、スタッフ同士で理念を共有することが出来る。また、ミーティング時にも確認し意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で講座やコンサート、花見といった地域事業に取り組んでいる。ボランティアスタッフの受け入れや近隣の喫茶店、しゃべり場などへ外出し交流がとれている。	地元ボランティアによる食事作りや、長期休みには子供もホームに遊びに来るので、地域の方との交流が図れている。来所しやすい環境作りを工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(法人として)認知症学習会、認知症家族会などを開催している。また、定期的に「えん通信」を発行、配布している。また、近隣の学校等の“現場体験”実習などの受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みについての状況報告や介護・福祉関連の意見交換をして、サービスに直結するものは取り入れている。	自治会長・民生委員・地域包括・家族等が参加し、利用者や職員の現状、行事予定等の報告、が行われている。家族との積極的な意見の交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	活動状況報告はおもに運営推進会議において行なっている。市のソーシャルワーカーからの入居相談などがある。必要に応じて入居者の支援方法の検討なども行なっている。	市には、空室情報等を出し、相談する等密に連絡を取っている。また市から相談を受けた例もあり、個別対応を行い、万全の体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	物理的な拘束だけでなく(玄関は日中施錠していない)心の拘束に対しても心がけている。	身体拘束をしないケアを徹底している。鍵についても日中は玄関の施錠はせず、内部・外部の研修への参加をすることで充分理解し、実践している。また言葉のスピーチロックも行わない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや研修で確認しあっている。多数のボランティアスタッフの方々に「第三者の目」としての機能をはたしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員の学習・理解までは至っていない。必要に応じて市のソーシャルワーカー、司法書士などに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度はグループホームの家族会を開催し気軽に意見が出せるような雰囲気作りを心がけた。定期的なカンファレンスを行い家族の要望を検討しケアに生かした。	家族を交えての会議などで出た要望については、検討し応えるように努めている。又、来所の際は気軽に話し合える雰囲気作りにも工夫し、行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見交換している。法人として総会や事業所連絡会議を毎月行なっている。	職員との関係も良好で、代表者・管理者などは積極的に新人などへの声かけを行い、不安を取り除くようにしている。ミーティング時にも意見を出しやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握し、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(4施設合同事例検討会)内部研修(認知症ケア事例検討会・認知症ケア講座・認知症の基礎知識と家族支援)中堅職員に新人職員指導を行なってもらっている。薬・糖尿についての研修。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数の他事業所との合同学習会が定期的にあるほか、グループホーム協議会の研修への参加などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がどういった不安を持っているか探るよう努めている。入居前に必ず本人と職員が面識をもてるよう図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安なことなど時間をかけて話しを聞いて、話しやすい関係作りを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族の介護力、経済状態など考慮して入居の可否、待機などの判断をしている。又、当法人内他事業所や外部の医療施設などの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること・できないことを見きわめ、本人のペースで暮らせるよう努力している。「共に暮らす」ことを常に考えていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間をかけて、家族の気持ちが「お世話になる」から「共に支える」へと移るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などが気軽に来訪できるような雰囲気づくり、家族との外出の支援などに努めている。	馴染みの美容院に行ったり、教会に通われている利用者もいる。友人など来所してもらうことも多く関係が継続できるよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようにテーブルの席どりなど工夫し、入居者同士で交流できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への面会や、行事や家族会の告知などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の暮らし方のペース等は基本的に本人の自由にしてもらっている。 本人から直接聞き出しにくい場合には、その意向を汲み取る努力をしている。	自宅で過ごしている感覚でいられるよう、思いや意向は、本人の言葉や職員の気づきで把握し、支援を行っている。また、日々の行動からもくみ取れるよう目配りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から聞き出すなどして努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する能力とその日によって異なる状況を把握し、自立支援につなげていきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングなどでの発言をまとめてプラン作成の参考にして、日々のケアにつなげていっている。スタッフ間の意見の交換を丁寧に行い、そのことを本人、家族カンファレンスに反映している。	家族、本人の要望等も受け入れ、その都度考え直し、モニタリングを作成している。スタッフの意見等も反映させ、一人一人にあったものを作り上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やミーティングで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の他事業所と協力しあうなどで取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源の把握に努めながら、買い物や散歩、ドライブに活かしている。法人として地域のボランティアやコンサートの開催といったかたちで支援がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を主とし、受診には必要に応じて職員も同行するなどの支援をしている。	かかりつけ医への受診は、基本的には家族対応をお願いしているが、希望等あれば職員も同行している。医師と相談を行いたい場合は、看護師が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と情報の共有をし、適切な医療へ結び付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が予想される入居者に関しては医療機関と相談を行なう実際の入院時には看護師、MSWからの聞きとりを通し情報交換や相談に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて個別の方針を探っていくている。	契約時には、家族に向けて重度化や看取りの方針を説明している。重度化する中で、家族、医師、職員と対応方法やリスクについて繰り返し話し合い、出来る範囲の対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命等の研修に参加したり個別に看護師より指導を受けたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行なっている。	定期的な防災訓練では、消防署の指導の下に行い、地域の住民の参加もある。災害時に備えて備蓄もあるので、地域の方からも安心して頂けている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しながらその入居者にあわせた対応をしようと努力している。	トイレの誘導、入浴、食事などの支援が必要な場合も、本人の気持を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや介護に留意している。職員は意識の向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアから本人が何を望んでいるかを探りながら、本人の希望表出や自己決定の支援ができるよう努力しているがまだ不十分だ。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務本位にならないよう、一人ひとりのペースを尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪や髭など家族の希望も考慮して、一人ひとりの好みを尊重した身だしなみや衣類選びなどを支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを一緒にやっているがまだ行なえる余地がある。	利用者の健康状態等考慮し、管理栄養士がメニューをつくっている。調理・配膳・片付け等、できることは可能な限り職員と一緒に行なわれている。台所のスペースは開放的で利用者が自由に入出入りできる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士、看護師と相談して、一人ひとりに合った支援をしている。必要な入居者にはチェック表を利用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力を引き出しながら歯磨き、義歯の手入れなど支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握などに努め、声掛けや誘導、介助、適切なおむつ使用をすることで失敗感につながらないようなサポートをしている。	現在、布パンツの方も多く、自立されている利用者もいる。又、オムツ使用の方は、排泄表を参考にしながら声かけをして布パンツに戻られた方もいる。トイレでの排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士、看護師と相談して、一人ひとりに合った支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	デイサービスと共用ということもあり、必ずしも本人の要望優先とはいっていないが、くつろいで入浴できるよう努めている。	職員の都合で入浴時間を決めるのではなく、希望に添うように何時でも入浴できるようにしている。入浴は、そのつど湯の入れ替えで、更衣室は重ならない様プライバシーを尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、寝具・室温・照明などを調整したり、不安の強い方とは職員も一緒に横になったりするなどして支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカルテにて確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味の違いを意識し、一人ひとりに合わせた役割などの支援をしている。飲酒や喫煙も可。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人手・安全性・体調面など考慮したなかで希望にそえるよう努めている。一人での外出も原則として可。その場合は連絡先の確保などしておく。法人コンサート、お花見は家族の参加もある。	季節に合わせた行事を行い、ぶどう狩りなど盛りたくさん又、浄瑠璃などもがあれば同行し楽しんで頂いている。一人ひとりにあった支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	機会は少ないが、入居者のレベルに合わせて、自分でものを選んだり支払いをしたりできるようなフォローを試みている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂天井に蛍光灯を新しく設置し、読書や食事の時明るく過ごせるようにした。窓の開閉をこまめにして温度調節に気をつけている。リビングのテーブルにお庭の花を飾ったりして季節感を取り入れている。庭の畑の野菜が食事に出て生活感を出している。	居室の窓は、大きくそこから広いウッドデッキのベランダに通じ自由に出入りができる。そこで、洗濯物を干したりもされ天気の良い日にはランチやおやつを楽しんで頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	「監視されている」という不快感に配慮し、建物設計時にあえて死角の多いつくりにしてある。 気の合った人同士で過ごせるような備品(多人掛けソファなど)を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの個性を尊重し、本人と家族の趣味や意向にそった居室づくりをしてもらっている。	窓やドアにも工夫がされている。居室のドアの上には、天窓があり常時スタッフが喚気の調節をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に留意しながら、「できることやわかること」の把握をすることに努力しているが、まだ工夫が必要。		